

千葉県白井市の南園^{なんえん}開拓は、県の北西部に位置し、東京都心へのアクセスも良好な地域である。

標高は 20～30m の台地で、46 年の入植当時は、松やクヌギなどが繁茂した民有地の山林だった。

当地に入植してきたのは、終戦まで南方（マレーシア）でゴム園を経営していた 22 名の人達であった。しかし、南方では現地の人を雇って農園を経営していたので、農作業の経験が浅く、自分達自身の手での開墾は辛苦を重ねることとなった。

48 年には、南方でゴムの生産に携わっていた人達が入植したことに由来して、「護謨^{ごも}従業員^{じゅうぎとういん}開拓農協」という、全国的にも珍しい名前の開拓農協が発足した。

入植当時の作物は、小麦、陸稻、サツマイモなどだったが、思い通りの収穫とはならなかった。

59 年には、畑地^{かんがい}灌漑用の大型ポンプを設置して、畑全体にスプリンクラーで散水できるようになり、干ばつ時にも生産性を上げることができるようになった。

また、白井市で百年の歴史があり、元々盛んだった梨の栽培も導入して活路を開いていた。

組合員の数年に亘る努力の結果、34 ha の農地を作り上げた。

01 年に、「開拓の碑」が灌漑^{かんがい}用のポンプが収納されていた小屋の敷地に建てられた。

碑文には「南園の命名については、現地が白井市（当時白井村）の南端に位置していること、更に、組合員一同が第二の樂園を建設しようという思いが込められている」とある。

現在は住宅地に変貌しているが、梨などの果樹園が所々見受けられる。

南園 12-232-2

①調 査 日 令和7年4月22日

②所 在 千葉県白井市富士226

③地 区 の 沿 革

④設 置 年 月 日 平成13年5月吉日建立

⑤設 置 者

⑥碑文（表面）

開拓の碑

南園は昔、源内山と呼ばれ、松・櫟・灌木等が繁茂した民有地の山林であった。

農地改革に伴い、終戦まで外地南方に於いてゴム栽培経営に従事していた有志が、内地引揚後、昭和21年現地に入植し、手開墾にて辛苦を重ね、23年護謨従業員開拓農業協同組合を設立、組合員22名の数年に亙る努力の結果、34ヘクタールの農地を造り上げ、食料増産に貢献して来た。

尚、昭和33年には、千葉県下にも先駆け画期的な畑地かんがい事業を、富士南園土地改良区設立を基に計画着工、翌34年に事業費1000万円で諸施設を完成、旱魃時にはスプリンクラーで水をふんだんに、畑地全面への散布が実現した

顧みれば、50有余年、故人・先輩から引き継がれた粒粒辛苦の実績は、南園そのものである。

因みに、南園の命名に就いては、現地が白井市（当時白井村）の南端に位置していること、更に、組合員一同が第二の楽園を建設しようという思いが込められている。

ここに、開拓の年輪を碑に刻み、後世に伝えるものとする。

平成13年5月吉日建立。

⑦碑文（裏面）

※裏面には20名の氏名が刻まれている

⑧現 在 の 状 況

白井ふじこども園が傍にある。